100歳の川崎さんらを招いて
～各地で敬老会～

九月十五日は敬老の日でした。また、この日から一週間は「老人福祉週間」にあたります。

多年にわたって、社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う恒例の敬老会は、九月十四日に木崎地区、九月十五日に蒡塚地区が終り、岡方地区が九月二十一日、長浦地区が十月十日、早通地区が十一月ごろに、それぞれ計画されています。

この敬老会に招待されるお年寄りは、今年度中に七十歳を迎える人を含め（明治四十四年三月三十一日以前に生まれた人）二千五百七十六人（九月一日現在）で、昨年に比べ百二十三人の増になっています。

地区別では、蒡塚の八百九十八人が一番多く、次いで木崎の五百八十八人、長浦の四百八十三人、岡方の四百四十五人、早通の百六十二人と続いています。

現在、市の最高齢者は、先月の十一日に百歳の誕生日を迎えた川崎ミツさん（内島見）で、次いで、九十七歳の倉島キソさん（大久保）です。

敬老会では、県知事から百歳の川崎さんに洋掛けふとんが、今年度中に九十歳に達する十一人に座ぶとん、七十五歳以上の千三百六十三人に祝菓が贈られます。また、市長からは、八十八歳を迎える十七人に、まくらが贈られます。

なお、敬老会にかかる費用は、総計四百三十万七千円で、お年寄り一人当り平均で、千六百七十二円となっています。

社会福祉事務所の調査によると四月一日現在で、市には六十歳以上の人が五千二百八人おり、総人口に対する割合は一二・三八％。つまり、百人のうち十二人がお年寄りということになります。

豊栄市長寿番付表

（S55. 9. 5現在）

東		西
川崎ミツ（内島見） 明治13年8月11日生 100歳	横綱	倉島キソ（大久保） 明治16年1月19日生 97歳
田村スイノ（笹山） 明治17年10月15日生 95歳	大関	加藤サキ（横土居） 明治17年12月13日生 95歳
尾形ケサ（新井郷） 明治18年2月1日生 95歳	関脇	久下スエ（下土地亀） 明治18年8月20日生 95歳
丸山リエ（新桑） 明治19年1月2日生 94歳	小結	丸山トメ（中大口） 明治19年11月10日生 93歳
相馬庄三郎（山飯野） 明治19年11月20日生 93歳	前頭	斎藤ヒデヲ（笠柳） 明治20年2月10日生 92歳
首藤ヤス（内沼） 明治20年2月26日生 92歳	同	二井関太郎（尾山） 明治21年1月5日生 92歳
原助次郎（大久保） 明治21年1月20日生 92歳	同	村山ハル（下他門） 明治21年3月10日生 92歳
佐久間七郎（上黒山3） 明治21年5月1日生 92歳	同	森田ミツ（木崎） 明治21年5月25日生 92歳
曽我栄吉（浦木） 明治21年5月28日生 92歳	同	五十嵐喜代蔵（大迎） 明治21年8月31日生 92歳
渡辺キヨ（笹山） 明治21年9月5日生 92歳	同	佐藤政太郎（内沼） 明治21年9月27日生 91歳

大正五年から部落敬老会
長浦地区 浦木自治会

▶ 大正五年（？）の敬老会風景

長浦地区の浦木自治会（相馬清一自治会長、世帯数百十戸）では、大正五年から自治会独自で敬老会を催しています。

昭和四十九年までは三年に一度の開催でしたが、相馬さんが自治会長になった昭和五十年からは、毎年開かれるようになり、ことしは第二十六回めを迎えます。

以前は、第一回めが開催された四月十九日に行っていましたが、農繁期などの関係もあり、現在は稲の刈入れが終る十月下旬に行われています。

昨年は、自治会のお年寄り（七〇歳以上）六十人が、浦木公民館に招待され、全員で記念写真を撮ったあと、ごちそうを食べたり、婦人会の踊りなどのアトラクションに興じたり、楽しい一日をおくりました。

ことしも、稲の収穫が終る十月の下旬に敬老会が行われる予定になっています。

70歳から毎回出席
石井源蔵さん（浦木81歳）

「同年代の人たちと、ゆっくり話が出来るのは、敬老会の時ぐらいなもので、七十歳で初めて出席、以後、かかさず出させてもらっています」と、石井さん。

「民謡や踊りが好きで、太鼓や笛も去年までやっていました。敬老会で、酒が入れば歌ったり、踊ったりもしましたよ。笛は、のどの調子が良くないので、吹けなくなりましたが、太鼓は、気分がのれば今でも時々たたいたりすることもあります…」

昨年、金婚式を迎えた石井さん夫婦は、そろって敬老会に出席することもあるとか。

▲ 草取りの手を休めて話してくれた曽我さん

毎年楽しみに！ 曽我チイさん（浦木75歳）

「私は、五十年から毎年よばれていっています。年取ったので、一生懸命畑仕事をするわけでもなく、近所の人たちとお茶を飲むのが楽しみでねっし。敬老会で、みなさんと会うのを、毎年楽しみに待っているんですよ。たいがいの人は、喜んでよばれていっているみたいですね」

現在は、たまに畑や庭の草取りをするのが日課とのこと、草取りの手を休めて、話してくれました。

"いつまでも続けたい"
浦木自治会長 相馬清一さん

そういう意味で、今後も、お年寄りを大事にし、敬老会はずうっと続けていきたいですね。昔は、部落の"きりの木"を売って、敬老会の経費をねん出したといいます。以前は三年に一度の開催でしたが、運が悪い（病気や死亡）と出席できない人が出てきますんで。ことしは、十二人も新しい人が出席するんです。来年からは、由緒ある四月十九日にやる予定です。

この浦木の部落をここまで育ててくれたお年寄りには、自治会として深く感謝しています。また、これらのお年寄りのおかげで、現在の自分らがあるのだと思います。

現代的なオールマニア
神林茂さん（早通南・70歳）

「万能選手は一芸にひいでずというが、この人こそ、この道をいく」

昭和三十四年八月九日付の新潟日報は、大きな見出しで神林茂さん（早通南二、七〇歳）を紹介しています。

神林さんは、三十年以上も県職員として勤務。しかし、かたい職業に似合わず、ラジオ組立てなどのオーディオ、ハーモニカ、自転車競技、絵図案文字、模型づくり、マージャンなど数えきれない趣味特技の持主。しかも、それがみんな、人がまねのできないほどの力の持主なのです。

通された応接間には、ポスターカラーで描いた作品、まだ未完成の帆船の模型、つばきを形どった彫物など、傑作が所狭しと並んでいます。

若いころから多趣味なのですか

「そうですね。豊作貧乏という言葉がありますが、私は多趣味貧乏とでも言うのでしょうか。暇つぶしにやってんです。今は、不用品や廃品を利用して、創意工夫で作品を作っています。この帆船なんかも子どものいらなくなったおもちゃを利用して作っているんです。ご用ちょうちんなども作って、他人にあげているんですが、家内に〝あなたはいい気持ちであげているでしょうが、相手の方は、ありがた迷惑がっているかも知れませんよ〟なんか言われたりしています。日曜日は、午前十時になると、きまってジャン仲間からマージャンの誘いです。年齢が半分ぐらいの人とやってんですよ」

また、十七歳のころ、葛塚から松ケ崎（新潟市松浜町）まで一周する自転車競争があり、飛び入りで参加したら優勝したというエピソードを持っています。

現在の神林さんは、好きな酒も断ち、早通地区の老人クラブの一員として地域づくりに奉仕しています。

▶ 所狭しと並んだ傑作を前にして語る神林さん